カテゴリー変更及び理由【汽水淡水魚類】

和　名	旧和名	宮城県RL 2021	宮城県RDB 2016	変更	カテゴリー変更の主な理由
カワヤツメ		CR+EN	DD	変更	県内の複数水系で過去に記録があるが、近年の確実な生息情報がない。生息個体数が著しく減少したと考えられる。
エゾウグイ		CR+EN	VU	変更	県内の生息地は数箇所のみで、近年の大規模な洪水攪乱によりその環境が著しく悪化、生息個体数は減少した。
ニホンイトヨ		CR+EN	DD	変更	県内の複数水系で過去に記録があるが、近年の確実な生息情報がない。生息個体数が著しく減少したと考えられる。
チクゼンハゼ		CR+EN	VU	変更	津波による攪乱や震災復旧・復興事業に伴う人為的改変の影響で、生息地の多くが消失した。残存した生息地はわずかで、新たな生息地も確認されていない。
エドハゼ		CR+EN	VU	変更	津波による攪乱や震災復旧・復興事業に伴う人為的改変の影響で、生息地の多くが消失した。残存した生息地においても生息状況は著しく悪化し、その後の回復は限定的である。
キンブナ		VU	NT 河川のキンブナ	変更	平野部の水路や溜め池などに生息するが、人為的改変により生息地が減少している。他のフナ属が本種と同定されることで、生息状況が過大評価される傾向がある。
クルメサヨリ		VU	DD	変更	近年、県内の複数水系において継続して確認されたことから、これらの水系に恒常的に生息する可能性があると判断されたが、確認個体数は少ない。
マサゴハゼ		VU	CR+EN	変更	津波による攪乱や震災復旧・復興事業に伴う人為的改変の影響で生息地の一部が消失したが、残存した生息地では安定した生息状況が保たれていることが確認された。
スナヤツメ南方種		NT	―	新規	これまで、外部形態による識別が困難であることから一括してスナヤツメ類として扱ってきたスナヤツメ南方種、スナヤツメ北方種を、種毎に評価することとした。本種は北方種と比較して生息地が多いようである。
ワカサギ(通し回遊型)		NT	―	新規	通し回遊型が産卵場として利用していると推測される大河川の下流域は人為的改変を受けやすく、近年の確認例数は減少傾向にある。なお、他地域からの移入に由来する陸封型は評価対象としない。
シラウオ		NT	―	新規	生息地の多くは市街地と隣接した大河川の河口部であり、人為的改変を受けやすい。確認個体数の年変動が大きく生息状況が不安定である。
サクラマス(通し回遊型)	サクラマス（降海型）	NT	NT	和名変更	生活型の表記を、ワカサギ(通し回遊型)と統一した。
シロウオ		NT	VU	変更	震災復旧・復興事業に伴う人為的改変により生息環境が悪化することが懸念されたが、生息河川の多くで産卵遡上個体の著しい減少は見られなかった。
ジュズカケハゼ		NT	―	新規	平野部から丘陵部にかけての河川およびその周辺水路などに生息するが、人為的改変により生息地が減少している。
スナヤツメ北方種		DD	―	新規	これまで、外部形態による識別が困難であることから一括してスナヤツメ類として扱ってきたスナヤツメ南方種、スナヤツメ北方種を、種毎に評価することとした。本種の生息に関する報告は少なく、情報が不足している。
ヤリタナゴ		DD	CR+EN	変更	県内に生息する個体群は、他地域からの移入個体に由来する可能性があるが、詳細は明らかでない。
スナゴカマツカ		DD	―	新規	近年、従来のカマツカは遺伝的、形態的特徴から3種に分けられた。県内はスナゴカマツカの在来分布域であるが、これまで移入種である他のカマツカ類と区別されていなかったため、生息状況が把握出来ていない。
キタドジョウ		DD	―	新規	近年、従来のドジョウは遺伝的、形態的特徴から4種に分けられた。県内にはドジョウ及びキタドジョウが生息するが、キタドジョウについては生息に関する報告が少なく、形態にも不明な点がある。
ボウズハゼ		DD	―	新規	県内で過去に生息情報は無かったが、近年、複数の河川で確認された。再生産の有無は明らかではないが、確認個体の一部は越冬個体であり、標本に基づく成魚の北限記録がこれに含まれる。
テツギョ		要注目種	CR+EN	変更	「魚取沼テツギョ生息地」は昭和8年に国の天然記念物に指定されているが、近年の遺伝子解析研究により、テツギョはフナ属とキンギョの交雑を起源とする事が明らかとなった。
テングヨウジ		要注目種	―	新規	県内で本種は季節来遊魚に位置付けられるが、このような種の出現は、温暖化や海流の変動を指標する学術的に重要な記録となる。県内での本種の確認が、標本に基づく北限記録となっている。
オオクチユゴイ		要注目種	―	新規	県内で本種は季節来遊魚に位置付けられるが、このような種の出現は、温暖化や海流の変動を指標する学術的に重要な記録となる。県内での本種の確認が、標本に基づく北限記録となっている。
クロホシマンジュウダイ		要注目種	―	新規	県内で本種は季節来遊魚に位置付けられるが、このような種の出現は、温暖化や海流の変動を指標する学術的に重要な記録となる。県内での本種の確認が、標本に基づく北限記録となっている。
スナヤツメ類		―	NT	削除	これまで、外部形態による識別が困難であることから一括してスナヤツメ類として扱ってきたスナヤツメ南方種、スナヤツメ北方種を、種毎に評価することとした。